

3. 環境問題に対する キリスト教の応答

- 1) 神の信託管理人思想の展開
- 2) 自然理解の再解釈
- 3) 基本概念の拡張
- 4) フェミニスト神学からの問題提起
- 5) 「動物の神学」の形成
- 6) 米国・福音派における環境意識の向上

15

1) 神の信託管理人思想の展開

- ◆ ジョン・パスモアは『自然に対する人間の責任』の中で、キリスト教の伝統の中には、自然の支配者としての人間のイメージばかりでなく、自然のstewardとしての伝統もあることを示し、「スチュワード精神」(stewardship)の概念を導入した。

16

2) 自然理解の再解釈

- ◆ ゲルハルト・リートケ(旧約聖書学)ら聖書学者は、**エコロジーの視点から**聖書を解釈し直した。
- ◆ 自然と人間の関係を問う際に、創世記の冒頭(創造物語)だけに注目するのではなく、他の箇所(詩編、ヨブ記、箴言など)にある自然描写の多様性に目を向けさせた。

17

創世記1—9章

- ◆ 「神はこれを見て、良しとされた」(1:10等)。
- ◆ 「主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった」(2:7)。
- ◆ ノアの物語「わたしは、この度したように生き物をことごとく打つことは、二度とすまい」(8:21)。「あなたたちと共にいるすべての生き物、またあなたたちと共にいる鳥や家畜や地のすべての獣など、箱舟から出たすべてのもののみならず、地のすべての獣と契約を立てる」(9:9)。

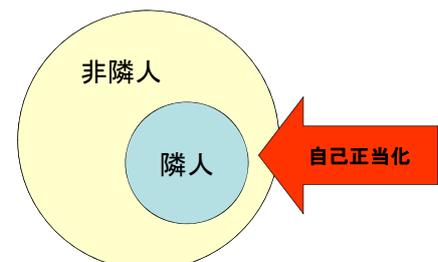
18

聖書の中の多様な自然理解

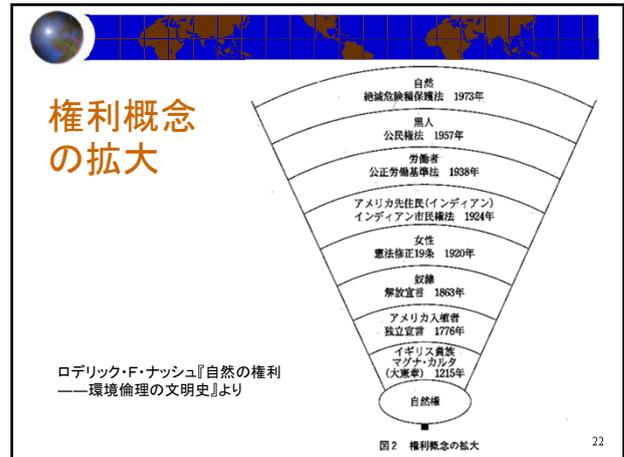
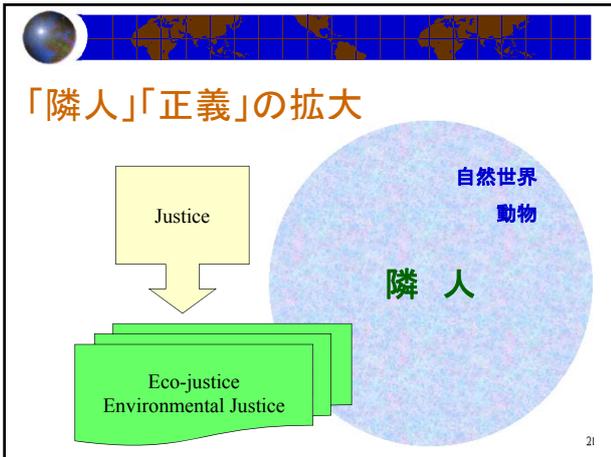
- ◆ 詩編8、104、148編
 - 被造物と神との緊密な関係を描写
- ◆ 新約聖書(ロマ8:18-25、コリ1:15-23、一コリ15:20-28、エフェ1:10)
 - 「被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています」(ロマ8:22)

19

3) 基本概念の拡張



20



-
- 4) フェミニスト神学からの問題提起
- ❖ エコ・フェミニズム
 - ❑ 人間による自然支配と、男性による女性支配の間にアナロジー(類比関係)を見出す。
 - ❖ 黙示文学的終末論への批判
 - ❑ 現在の自然環境は破棄され、新しい天地が到来するという考え方は反エコロジカルではないか。
 - ❖ 生と死の二元論への批判
 - ❑ 「最後の敵として、死が滅ぼされます」(一コリ15:26)
 - ❑ 生と死の不可分性: 食物連鎖、アポトーシス
- 23